

2021 年度 テクノ未来塾「産業デザイン財団賞」授賞式 報告書

-
1. 開催日：2022 年 2 月 19 日（土）午後
 2. 開催場所：NPO テクノ未来塾 オンライン授賞式（Zoom 開催）
 3. 参加者数：30 名
 4. 参加者の地域：関東・中部・関西
-

.....

今年度の「産業デザイン財団賞」授賞式は、昨年に続き、オンライン（Zoom 開催）にて執り行われました。理事長挨拶、受賞者のスピーチ、選考委員会 委員長による講評、の三部構成で、司会を中東理事が担当しました。以下のとおりご報告いたします。

.....

1. 理事長挨拶（理事長 阿部 惇氏）

テクノ未来塾「産業デザイン財団賞」は、2020 年度よりスタートしました。今年度も、「夢と志をもった技術者の自立・自律」の理念に沿った活動をされた方のチャレンジ精神を称え、さらに豊かな未来社会に貢献する独創的な活動を力強く進めていただくことを期待して、ここに表彰いたします。



今年度の受賞者は、高校生を対象にユニークな授業を企画し、校長先生はじめ先生方の協力を得ながら、毎年、創意工夫を重ねて実施してきた「エンジニアという職業を語ろう」プロジェクトの代表、福井さんです。

我々テクノ未来塾の大きな仕事、ミッションとして、次の世代に、未来に何を残すか、ということが非常に重要ではないかと思っておるところです。そういうなかで、今回のプロジェクトは非常に素晴らしい成果を挙げていただきました。未来に何を残すかという大きな事例として行われていることは非常に嬉しいというふうに思っております。メンバーの方々には優秀な方がたくさんいるわけですが、それぞれ一人ひとりの天分、というか持っておられる見識、それが実はこのプロジェクトで大いに生かされていると思います。今後も、この天分を生かしたプロジェクトをどんどん続けていってほしい、発展させていってほしい、と思います。これを私のお祝いのメッセージといたします。

それでは、表彰状を読み上げます。

表彰状
産業デザイン財団賞

テクノ未来塾 エンジニアという職業を語ろう PJ 福井 清 殿

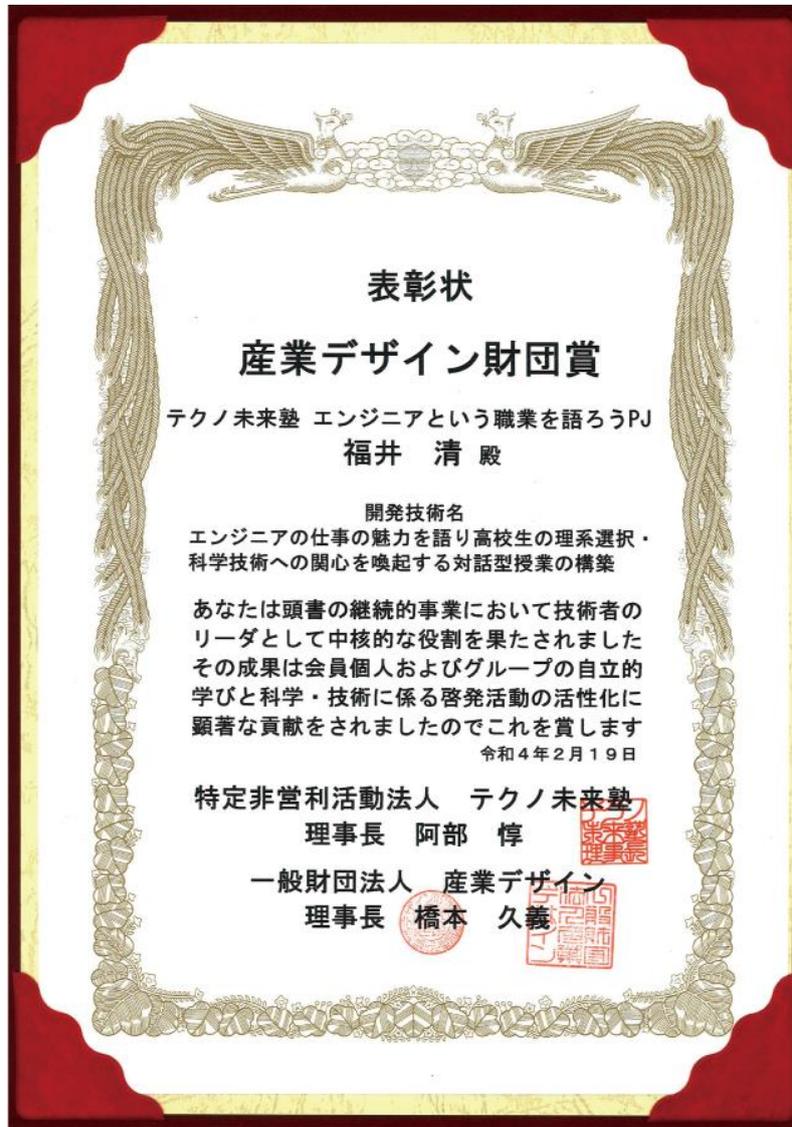
開発事業名
エンジニアの仕事の魅力を語り高校生の理系選択・科学技術への関心を喚起する対話型授業の構築

あなたは頭書の継続的事業において技術者のリーダーとして中核的な役割を果たされました。その成果は会員個人およびグループの自立的学びと科学・技術に係る啓発活動の活性化に顕著な貢献をされましたのでこれを賞します

令和4年2月19日

特定非営利活動法人 テクノ未来塾 理事長 阿部 惇
一般財団法人 産業デザイン 理事長 橋本 久義

以上です。福井さんはじめ関係者の皆さん、おめでとうございます。



2. 受賞者のスピーチ（福井 清氏）



この度は産業デザイン財団賞という立派な賞をいただきまして感謝しております。高校での授業にご協力いただいたプロジェクトの皆さん、そして西宮北高校と四日市南高校の皆さんにも感謝します。今後ますます、この活動を発展させていきたいと思っています。

パワーポイント資料で少し事例をご紹介します。

西宮北高校の授業では、技術や現場の話、高校で習う物理定理が技術とどう関わっているかを具体的に示す事例など、それぞれの専門分野から生徒さんたちが興味を持つ内容を選んで授業を組み立てています。

活動・構想のテーマ
受験を目指す高校生に、**大学進学先の将来、とりわけエンジニアという職業について、長年、エンジニアの業界に携わる塾生から語りかける。**高校で習得する物理などから将来に広がるイノベーションの事例と社会的な意義について、**対話を通じ気づきの機会を提供する。**
講演者：中谷謙雄

活動・構想の目的
国際的な技術競争力が低下する日本のものづくりの現場に、**創造力と活力があふれる若いエンジニアの活躍の機会を増やしたい。**
従来の物理授業に加え、**テクノ未来塾の塾生による、自動車、電機、半導体、化学、素材などの専門の経験を織り込んで、創造と開発に繋がる好奇心を鼓舞できるような授業を提供する。**

リモート講師の先生から見た教室
アンケート質問への回答をグループ討議

授業後のアンケートが後日、先生から送られてきますが、そこに書かれているいろいろな種類の質問にも丁寧に回答、単に答えを教えるのではなく、生徒さんが自ら考えるきっかけを得られるように工夫しています。生徒さんたちは、「私の質問にこういうふうに答えてくれるんや」とますます盛り上がっているようで、非常に手応えのある活動になっています。

この2年ほどはリモートになっていますが、こんな遠方から講師が参加して授業をしてくれて、と喜ばれています。高校生にどこまで伝えられるか、教えられるものは何か、我々も授業をすることで学ぶことが多く、生徒さんの感想から逆に気づかされることも多々あります。毎年、授業内容を見直して面白くわかりやすく工夫することはもちろん、生徒さん自身がふっと気づいてくれるような問いかけ、働きかけを心がけています。

四日市南高校の事例については、当初から主導している宗像さんよりご紹介します。はい、四日市南高校での授業は校長先生とお話して企画し、6-7年前からスタートしました。当初は技術者という視点を重視して、「理系の仕事について」「理系と文系の仕事の違い」などをテーマにしましたが、今は、我々の枠を超えて文理という広い視野で「文系と理系 それから働くということ」について一緒に考えるところまでできています。我々自身も高校生の文理選択のところに伴って、自分たちの考え方も変化し気づかされることも多くなった、という意味ではすごくうまくいっているのかな、と思います。

四日市南高校では「キャリア教育」の枠組みで実施していますが、これはテクノ未来塾とのコラボレーション企画となっています。高校のほうのレピュテーションもよくて、継続してほしいと言われて

いるという意味でも、これは本当に皆さんの見識の高さが高校生にも、あるいは先生方にも役立っているのかな、と思っています。これからも、様々な形でご協力いただければ、活動がより広がっていくと思いますので、是非、よろしくお願いいたします。

以上で受賞のお礼のスピーチとします。関係者の皆さん、ありがとうございました。

3. 選考委員会 委員長より講評（理事 中村 善貞氏）



今年度は複数の応募があり、初めて選考委員会を結成して選考を行いました。選考委員は、応募案件に関係していない理事、会員から立候補していただき、理事3名、会員3名の編成となりました。

選考方法についても、選考委員会で議論を重ね、一から作りました。選考のポイントとして、以下の通り、選考項目を7つほど基準として挙げております。

- 1) 活動が技術者個人の自立・自律を目指しているか。
- 2) 活動に技術者としての専門性が活かされているか。
- 3) 活動が新たな社会的価値を生み出しているか。
- 4) 活動がユニークであるか。
- 5) 活動がテクノ未来塾の他の活動に波及効果を及ぼしているか。
- 6) 活動が社会実装への貢献があり、外部に対し社会的インパクトを与えているか。
- 7) 活動に次なる展開の道筋があるか。

応募案件はそれぞれに素晴らしい点があり、単純に比較しにくく、選考委員の評価が拮抗しましたが、点数評価・協議の結果、僅差で「エンジニアという職業を語ろう」プロジェクト（代表 福井 清さん）が産業デザイン財団賞にふさわしい、ということで決定いたしました。そして選考結果を理事長に報告、承認いただいて本日の表彰に至った、という流れになっております。

受賞プロジェクトについて、選考委員会のなかでは以下のような評価となりました。

メンバーのエンジニアとしての経験や専門力を上手く活かし、次世代エンジニアに対し、未来への「気づきのキッカケ」や「希望」をもたらしている点が評価されました。

また西宮北高校だけでなく、四日市南高校へ、そしてさらなる広がりも期待できる点も評価されました。

来年度も多数の応募をいただけるとありがたいなと思っております。今年度、惜しくも受賞を逸したチームも非常に良い活動ですので、参加メンバーの技術者としての能力向上、モチベーションアップにどう反映させていくか意識した活動を展開され、再度応募してください。またグループと個人とを問わず、新たな活動・新たな挑戦も期待しておりますので、よろしくお願いいたします。

以上